

特色ある教育活動

—「都市教育・研究助成」を生かした取り組み紹介—

深まる・広がる校内研究

豊根村立豊根小学校

教頭 村 井 正 照

北設案では、教員の力量向上を目的とし、授業力をつけるために、郡内の教員が全員集まり研究校にて授業研究会を行っています。今回は、豊根小学校の研究について紹介します。

愛知県北東部にある山と川に囲まれた豊根小学校は、平成17年に三沢小学校、坂市場小学校、旧豊根小学校が統合して誕生しました。平成28年には、富山小学校と統合し、村に1つの学校になりました。令和元年度は、新入生4名を迎え、全校児童31名でスタートしました。

深まる研究

本校では、昨年度まで、「仲間とともに問題を解決していく子どもの育成」対話を通して学びを深める算数科の授業づくりを「研究主題」として、研究を進めてきました。研究にあたり、「子どもを中心に据えた教育」という理念を根底にして、「子どもの実態を把握すること」と「子どものよさを生かすこと」を大切にして算数科で実践を進

めてきました。

研究の成果として、子どもの振り返りの記録や日記には、算数が好き、仲間と話し合い、考えることが楽しい、難しい問題に挑戦してみたいなど、仲間とともに粘り強く学び合う姿が見られるようになりまし。また、単元テストの得点が向上した、研究が楽しかったという教員の言葉には、研究を主体的に取り組んだ満足感がうかがえました。一方、課題として、昨年度末の学力テストでは、教員が期待するような結果は得られませんでした。その原因として、「定着に至るまでの十分な反復練習の不足」、「非認知能力に偏った振り返り」が挙げられました。

広がる研究

そこで本年度は、昨年度までの成果と課題を踏まえ、導人と振り返りの方法に修正を加え、子どもが学習内容を定着させていくことを願い、研究を積み重ねています。また、学校研究として算数科の授業づくりを中心として推進していくとともに、これまで研究で培ってきた対話を通した学び合いを他教科にも広げていきたいと考えました。

第2学年図画工作科の1学期実践「どうぶつむらのピクニック」で児童は、あき箱や材料の特徴を生かして装飾材料を選んだり、使い方を工夫し

たりして、本物の動物に近づくように制作しました。この学習では、仲間の作品を鑑賞するキラリタイムを設け、仲間の作品のよさやアドバイスをもとに、自分のつくりたい動物の形にするにはどうしたらよいかを話し合いました。キラリタイム後には、自分になかったアイデアを取り入れ発想を広げ作品をつくる姿がありました。仲間との対話を通して完成した作品には、材料やその組み合わせの工夫が見られました。

成果は子どもたちの姿

2学期始業式に、制作活動に自信がなかった子どもが、2学期頑張りたいこととして「いろいろな物をすぐにつくれるようになりたい」と、全校の前で発表しました。研究成果が子どもたちの姿に表れてきています。



本物らしくするために、たてがみをしもにしたよ